

「カレントサーチ」交流会あいさつ

令和7年11月14日（金）

皆さん、こんにちは。山梨予備校の斉木です。毎回このようにご挨拶の機会をいただき、たいへんありがたいと感謝する気持ちでいっぱいです。その一方で、「探究的な学習」について予備校としてはどう考えているのか的な話を求められているようでもあり、毎回気が重い、というのも正直な気持ちです。

さて、共通テストから始まる大学一般入試が近づいてまいりました。山梨予備校でも緊張感が高まっていますが、生徒諸君にはペースを崩さず、平常心で過ごすことを呼びかけています。私は半世紀近く昔、現役生として不合格だった大学を翌年再び受験しました。そのおかげで共通一次試験の元年を経験しました。

従来、受験生は出願の時点で同じスタートラインに立ち、各大学で行われる試験に全てをかけていました。共通一次以降の受験生は自分の得点から可能性を探り、行きたい大学があっても出願を諦めるか、または幾分か諦め気分で出願するか、となり、「ここだ!」という一発勝負の魅力がなくなっていました。

共通テストは問題が複雑化し、ページ数も増えました。探究的な学習の場面を想定し出題されるのですが、限られた時間で読み取ることは至難の業で、この形に私は少々疑問を感じます。予備校の授業では資料や会話文も丁寧に読むよう指導します。テーマに様々な角度から迫り、理解が深まるので、格好の勉強材料になっています。疑問を感じる、と言いながら、ちゃっかり利用しています。

科目選択や日程も複雑になりました。溢れる情報の中で受験生の心理的負担は相当なものだと思います。昨日、生徒へのメッセージを次の言葉で締めくくりました。「これから起こる全てのことは運命です。運命を潔く受け入れる覚悟、と同時に、自分の底力を信じて歩き続ける日々、そして人生であってほしい」。

生徒は突然、運命を受け入れなさい、と言われ戸惑います。しかし自分を信じて歩む過程で出会う全てが運命です。人生出た所勝負、とはこのことだと思います。現役高校生の皆さんも、行きたい大学に果敢に挑戦してほしいと思います。

残念な結果の時は山梨予備校を頼ってください。最後の部分はお聞き流しを…。本日もよろしくお願いいたします。